

(翻刻)『類題三河歌集』(四)

繁 原 央

〈竹尾正久輯『類題三河歌集』の翻刻の(四)として、本稿は下巻の「旋頭歌」「長歌」「文章」と「(跋)」「作者姓名録」「奥付」を収める〉

旋頭歌

山躑躅

宣隆

本茂の山邊に咲るにつゝしの花みぬさとる砥鹿のはふりかをりかさすかに

橋

光尋

わかやとの花たちはなはちりぬともよし郭公こゝた來なけはちりぬともよし

薄

全

はたすゝきはななか袖における白露吾妹子い出てみまさねおける白露

海邊千鳥

忠順

うらなみにこゑうちそへて千とり妻よふ夜くたちて汐やみつらむ風やさゆらむ

戀

五百杵

」(32 オ)

山かたにつくる大根のしろきたゝむきいつしかもわかまくらかむ白きたゝむき

筏

五百杵

衣手の田上河にいかたおろすなり大君の御あらかつくる檜のつまたかも

長歌

野遊

五百杵

かきろひのもゆる春野をゆきかへり心をやればみ空には雲雀はなき遠

かたにきゝしはとよむおもしろきかもかきろひのもゆる春野

新樹

正久

吾屋敷の井の邊にたてるゆつかつらあはれ風ふけはかぜにかをらひあめ

ふれば色もなつかしゆつかつらあはれ

」(32 ウ)

晩秋宿宮崎

宣隆

露霜の秋のさかりににしきなす山みかほしみ神さふる杣坂こえて宮崎

のさとゆきくらし草まくら客のやとりにたゝひとり寐さめてきけはぬは玉

の夜やさむからむ若草の孀をやこふる山こしの風にたくひて牡鹿

の音きこゆ

反歌

さをしかの妻よふこゑを梓弓夜音のとほとにきけはかなしも

爐火

政幹

ゆたかなるとしのしるしと人みなの見もてはやせるしろたへの雪にはあれとふり
つめば身にたへかねてきぬたゝみいやさやしきはたゝみいやしきかさね 』(33 オ)
そひらにはふすまおほひきかしこにはわたうちかつきみとり子の乳こふかことく
埋火にいよりかゝれはみる夢もやすくむすひぬ此ものゝなからましかは老か
身の冬の夜戸をいかにかもせむ

相聞

光尋

玉藻菀いらこか崎に朝はふるなみこそ来よれ夕はふる汐こそさわけ
その波のいやしくゝゝに其汐のいやすゝゝにわかおもふ興津しら玉ひり
はむと我はおもへといとらむとわれはおもへとおきつ風さもらふほとに
としのへにつゝ

反歌

いかにして手にはとらましわたつみの神のかさしのおきつしらたま 』(33 ウ)

五穀

敬雄

うけもちの神の御身よりなりそめし瑞の御たから千早振神さへきこし
うつそみの青人草も一日たになくてすきめや鳥けものはふむしすらも
霊きはる命つくとふたくひなくうへなき美豆の御たからこれ

誠忠

正胤

安見ししわか天皇は百八十の国の大君千萬の國の大君その君のしらす御國
に生れ出しますらをわれはたむたきてむなしからめや玉きはる命をします
君のため国の御為は火にもいり水にもいりて天皇にあたむやつこら山ゆかば
草にはふらむ海ゆかば波にしつめむみよさはよしあらずともからさはぬ
あかき心をむなしくなさめや 』(34 オ)

文章

早春鶯

美石

花の香さそふかぜのしらべをもまたす百千鳥のさへつりにさきたちて
聲うつくしう春つけたるもめてたきや高きにうつるといふものから雲井
はるかに思ひあかりたるさまにもあらず心なき賤かきほにもすちかき玉
のみきりにも人うとからす来なくも他の鳥には似さりけりそのねくらさへ
あなかに花の枝とのみもさしわけす 宿ちかき竹のはやしにふしなれて
よそにうつらぬ鶯の聲まめゝしき心になむされは春やとき花やおそき
ときゝわかむことのさための博士とさへたのまれぬへきなとまたさらに似る
ものもあらしかし 』(34 ウ)

梅

繁樹

なにくれと花はいとおほかるなかにひとり春のはしめにしもさきにほふはまつ
たくひあらすなむされはまた鶯さそふしるへにもこのはなの香をとえら
ひいたされ人ことに折かさしつゝあそへともとりてはやさるゝよけにそを思
契はみやひたる花とあれかふとみつからほこりけむもよしありてこそ

賀茂祭

公阿

瑞籬のうちゆるされぬ墨染の袖をふりはへてもせむはかしこしとて
としことの祭をもよそにこそ聞わたりしかことしはかのあたりの人のこゝにしたし
く来かよふかありて けふといへは氏人ならぬ君にさへかけむ二葉のあふひ
かつらをとておこせたりかにきゝつるやうに二葉にていと青やかなるを手まさ」(35 オ)
くりつゝうちなかめてまつりみたらむこゝちするもをかしの心やうなりや

盧橋驚夢

忠順

五月雨やゝふりはれてすゝしき夕くれ月次の題なる橋夢を驚かすと
いふうたよまむととかくおもひめくらすに例の口とからぬさかにて
とみにもいでこねは筆のしりくはへなから机によりゐたるに眠るとも覚
えぬに波の音していとをかしくよそひたる舟沖のかたよりゝゝいかなる
人ののりたるにかとめとゝめて見るにおひてよければにやあらむとく
みなどにつきぬ舟よりおるゝをみればこかねなすこのみをかけはかけほに
八ほこ持さゝけたりいとあやしければおくれてゆくすさのもとにさし
よりていかにしたまへる木のみにかと問へはこは皇命の大みことによりて」(35 ウ)
常世の国にわたりて持かへれる時しくのかくのこのみなりといひもあへす
足とく過ればつはらにもえとはぬを口をしうおもひたてるをりしも
さと吹来るかぜのかくはしきにおとろきてふとみいたせば庭の橋の
いみしふ咲みたれたるにほひくるになむありける古事記の風に吹ひら
かれたるをみれば玉垣の宮のわたりなりけりさてはたへま寺や夢に
見えけむとかつはをかしうなむまことやかつゝゝ思ひよりし橋の影もゆめと
ともにいつちにけむすゝろにくらうなりゆくまゝにくはへし筆もさし
おかれて

月

宣光

物のあはれは秋そまされるといひしはさることにて咲をまちけるををし」(36 オ)
むと心つくしゝ花よりも今ひときはまさりてあはれともかなしもおほゆるは
月まつくれのそらになむありける前栽のをはなの露をつらぬきとむる
玉の緒はかなげにうちなひき松虫すゝむしのしめやかになき出るも
おなし月まつすさひなるへし端ちかくたちいてゝ東の空をうちまもるに
やゝさしいつるかけの八重葎にもさはらす照わたるそけにいほむかたなく
なむ二千里外古人情とむかしの人のすむしけむもかゝるをりにこそ
と思ひいてらるゝにもいとゝたもとのうるほされて 秋のよの月はわか身
のなになればみるに涙のまつこほるらむかにかくに心つくしの秋なりや

水鳥

恒雄

汀のあしもかれふしてひろゝゝみわたさるゝ池の西にかれせぬ色の数そひ」(36 ウ)
て青羽つやゝゝとみえつるは浮へる鴨のひとむれなりけり水のうへやす
けにて心ゆくさまに遊ぶめるはあはれにもいとをかしされと定めなき
冬のそらに身をかくすへきかけもなくていかにたゝよふにかとみるかう
ちに俄に吹くるかせにつれて雪あられさへちりくればうちとけて
ぬるまなく玉藻のとこのこほる夜なゝゝなきあかすらむこゝろのほとも
おしはかられてあはれふかくなむ

男文のかすをつくすをつくせとも女うけひかねはうらむる躰と
いふ堀川院艶書合の題にて人々とともに

登波女

思ひにはあへす消はてなむ命も誰ゆゑならねは何かは露のとをしかる」(37 オ)
ましけれとひたふるにつらき御心になけの御言葉たにかけさせ
たまはずは 後の世もはひまつはりて葛かつらたえぬうらみのいかに
残らむさのみはよもなからへしものをや

正月の兼題暁更寐覚といふ事を

篤慶

木の國のふみや世寿堂より玉藻集のなりをへたるをおこせたりと
いふ夢みてうれしさのあまりにふと目さめてまくらのあたりをみれば
ひとつの箱めくものあり何ならむとおもひて引よせみれば夢にたか
はす書屋よりおこせたるなりけりなまねふたさもたちまちわすれ
てとくひきとけはまことに玉藻集なりけりうれしさいはむかたなしとしひ
のもとにゐよりてよみ見るに四の時のけしきはさらなり恋雑などの」(37 ウ)
ことにをかしさみやひやかなるいひしらすとかくみもてゆくほとに鳥
のこゑすかたはらにいねたるめのわらはの目さめて春宵一刻價
千金と寐ことましりにうたふもをかしけにこよひしもことはの花の
さかりなるをあまたみわたす一時はちゝのこかねもなにかせむとおもほゆ
まとのひまよりあかほしのかけみえ吹かせに梅かをりていはむかたなきあか
つきのそらになむ

」(38 オ)

(白紙)」(38 ウ)

(跋)

これの三河の國に哥よみふみかく人々はふるくよりいとさはなれど
歳月を経ゆくまにゝゝさる人ありきと名をたにする人もすくなくまし
て哥文どもは其家々にのみひめおきていたづらにしみのすみかとなり
ぬるもありぬべければいかでさる人々のをまきえて一卷となしおのが
つかえまつる 八幡の大神の文庫にをさめて永き代につたへんと
はやくより思ひおこしていさゝかはつどへおきつれど身におはぬわざにし
あればおこたりかちにのみなりゆきぬるはいとくちをしき事になんさるを」(39 オ)
学のはらからなる竹尾正久おなし心に思ひおこして国内ことゝゆきめぐり
名たゝる人々のはさらにもいはずかくれて世にあらはれざるをもあなくり
求め四の時恋くさゝゝなどえらびとゝのへてかく一部となし三川哥集と名を
おふせたるはいとゝゝよろこばしくいみしきいさをにぞありけるおのれはさる
ちなみもあればいかでそのゆゑよしをとこはるゝを歳頃おもひわたりにし
ことなればかくつたなき一ことをかきくはふるになんありける

七十翁栄樹園主羽田野敬雄」(39 ウ)

三河歌集作者姓名録〔古人は圈もてわかつてり〕〔大林意備、藤井古典〕編
碧海郡

○利善主〔苜谷〕 土井大隅守

忠順〔苜谷藩〕 村上承卿

○真武	村上文晁	○忠幹	村上玄意
忠淨	村上正賢	○忠明	村上明司
○忠罔	村上邦太郎	○純	村上純〔幼年〕
○忠直〔堤〕	村上壽菴	○恭臣	村上楊林
○真謙	村上真謙	○恭甫	村上玄意
○義忠	村上玄意	篤慶〔新堀〕	深見友三郎
篤行	深見行太郎	直温	深見佐兵衛〕(40才)
○壽仙	深見壽仙	○善恕	深見藤兵衛
篤志	深見藤吉	弘治	深見次左衛門
英興	深見与一郎	○自明	深見又兵衛
昂藏	深見喜一郎	○美脩	深見芦山
純孝〔吉原〕	石川 齋	秀光〔鷺塚〕	平松泰造
純経〔吉原〕	石川喜六郎	政和〔桑子〕	近藤寛齋
厚給〔鷺塚〕	森 逸之進	養之〔東浦〕	本間周造
南陽〔西境〕	永福寺	○秀楷〔棚尾〕	前妙福寺
國香〔今村〕	專超寺弟	○實道〔大濱〕	海徳寺
教存〔新堀〕	光善寺	○卍秀〔棚尾〕	妙福寺〕(40ウ)
○貞女	忠直妻	三千代女	忠順妻
○美志女	忠順母	小鈴女	重愛妻
年野女	篤慶妻	徳女	篤慶二女
○志賀女	美脩妻	○八千代女	忠順女
専女	直温妻	富女	篤慶女
阿津女	厚給妻	妙誓尼	自明妻
柳女	善恕妻	世根女	忠浄妻

賀茂郡

家固〔三好〕	竹谷丹後	重武〔猿投〕	三宅邦之助〕(41才)
親昌	青山正親	祥徑〔伊保〕	加藤権頭
廣丸〔猿投〕	國克男〔十一歳〕	國克	三宅肥後
重秀〔衣〕	鈴木大隅守	真一〔上ノ山〕	武島真一
湖濤〔今村〕	児玉伴右衛門	利亮〔福田〕	酒井敬造
○道貴〔梅坪〕	太田自樂齋	豊風〔三好〕	久野安五郎
英重〔大鳥〕	大村三千九郎	惠廸〔衣藩〕	森波春語
和豊〔衣〕	杉本彦兵衛	健夫〔加納〕	山内禮次
敏雄〔寺部藩〕	由佐椿永	賢亮〔渋川〕	性源寺中
丈立〔上ノ山〕	觀音堂		〕(41ウ)
田免女〔梅坪〕	太田齋妻		

額田郡

○鳩臺〔岡崎藩〕	松下源之進	安興	清水兵右衛門
----------	-------	----	--------

好文	楠田郷右衛門	義貴	生田彦九郎
○大成	都筑藤一郎	時税	秋田九太夫
○千秦	山本唯右衛門	○景惇	萩須怨庵
正興	楠 篤藏	重織	柴田鐐三郎
○正賦	小瀧文太夫	隆原	那須牧太
興督	長尾應次郎	常弘	横井多十郎
○龍臣	桑田尚賢	重威	柴田勇馬」(42 オ)
○久純	志水三右衛門	○松充	柴田弥左衛門
義貫	藤井十右衛門	允義	安井藤九郎
○綱前	松下三郎左衛門	廣成	堀部源内
○吉虔	鳥羽七郎右衛門	義純	森左次右衛門
繁穂	和田縫之助	○岡瑛	塩田多潮
道瀨	三宅理兵衛	三辰	星田鋌之助
○恒寧	岡村八右衛門	政文	浅井太玄
安貞	三橋鷗兮	真斐	國分源八郎
政世	柳瀬五郎左衛門	○春道	松下十郎兵衛
秀高	佐藤道霧	○廣文	浅井朝三」(42 ウ)
興達	長尾濱右衛門	親恒	高井幸太夫
○太保〔岡崎〕	慶雲寺	○空阿	西岸寺
蓮周	覺恩寺	浄信	照雲寺
真道	喜樂院	貞應	浄圓坊
光郷	満性寺	松翁	圓頓寺
報阿	大林寺中	○千濤	石川文吾
政詳	近藤瑛之助	惟一	千賀傳右衛門
○根長	大須賀宗逸	○志宜起	渥美喜六
宗全	木村九兵衛	峯彦	鈴木彦助
守景	上田彦市	直幹	林幾之助」(43 オ)
古吟	伊藤弥一郎	桂甫	浅井桂甫
○嘉保	鈴木傳左衛門	顕光〔伊賀〕	柴田兵部
正貞〔舞木〕	竹尾覺之助	鷲山〔伊賀〕	柴田刑部
○正寛〔舞木〕	竹尾上総	○久倉〔高宮〕	大竹二祖次
正胤〔舞木〕	竹尾東一郎	○正軻	竹尾但馬
政恭〔高宮〕	大竹将監		
龍光〔深溝〕	長満寺	周觀〔藤川〕	傳誓寺
徳裔〔大草〕	廣福寺	亮泉〔滝山〕	玉泉院
二泯〔伊賀〕	昌光寺	存暁〔生田〕	西福寺
恵直〔深溝〕	松林院	存梁	存暁弟」(43 ウ)
祐賢〔大平〕	緑盛寺中	○英盛〔櫻井寺村〕	櫻井寺
慈賢〔生平〕	不退寺	徳充〔上衣文〕	法林寺
○竹磨〔宮崎〕	林端寺	亮具〔滝山〕	觀量院

善界〔大草〕	廣福寺中	住行	正樂寺
智順〔大平〕	專光寺	了旺〔長峯〕	專福寺
常業〔本宿〕	富田群藏	廣冬〔土呂〕	成瀬新兵衛
盛之〔滝村〕	栗田左一郎	定宅〔土呂〕	加藤忠三郎
惟安	馬嶋俊山	重雄〔岩堀〕	水野貞齋
幸信〔深溝〕	横落要人	成功〔大平〕	吉野保平
○義方〔土呂〕	伊奈可兵衛	嘉衡	大竹朝吉〕(44 オ)
義治	吉田又七郎	矩道	加藤木工左衛門
盛英〔瀧山〕	栗田藤太郎		
厚女〔岡崎藩〕	柴田勇馬妻	波都女	長尾濱右衛門女
締女	長尾濱右衛門妻	琴女	平井文七妻
淑女	波多野八兵太妻	鉄女	細谷弥七郎妻
保女	楠田慶藏妻	加壽女	都筑弥左衛門母
鐸女	柴田勇馬母	啓女	森左次右衛門妻
琴女	中山新兵衛母	○八重女	楠田郷右衛門母
多計女〔宮崎〕	真木次兵衛妻	満智女〔龍泉寺〕	鶴田弥十郎妻
千代女〔岡崎〕	早川久右衛門母	久女	正胤妻〕(44 ウ)
満須女	正胤母	宇津野女	了旺妻
秀女〔岡崎〕	小嶋義助妻	左以女	存暎妻
玉女〔岡崎〕	伴孫太郎妻	由加女〔岡〕	井上主水妻
幡豆郡			
政弘〔西尾藩〕	矢野雲八	元明	荻野 甫
○松窓	中村 連	兼久	山川新五右衛門
○玄文	尾崎嘉右衛門	明	松崎圓籠
訓規	西尾孫左衛門	忠知	酒井岡之助
○信	今井平馬	順治	水野善右衛門〕(45 オ)
○顕	高橋驥六郎	○信由〔西尾〕	内田三介
直	柴田立三	○定翰	今井大椿
嘉香	太田仁兵衛		
○行聴	吉祥院	公阿〔横須賀〕	福泉寺
音空〔味濱〕	満國寺	一翁〔道日記〕	不退院
賢空〔菊宿〕	常福寺	法空〔築籠〕	光粒庵
○寂湛	前満國寺	學空〔行用〕	樂善庵
千明〔善明〕	善德寺	元翁〔矢田〕	桂岩寺
寂雅〔今川〕	巖西寺	○徧空〔寺津〕	妙光寺
○順英〔吉田〕	前正覺寺	縁澄〔赤羽根〕	瑞雲庵〕(45 ウ)
○音阿〔松木嶋〕	普門寺	白空〔小牧〕	寶泉寺
行阿〔川口〕	常光寺	○良空〔矢田〕	養壽寺
明空〔八ヶ尻〕	香秀寺	實綱〔吉田〕	正覺寺

○義讓〔横須賀〕	源德寺	臨諦〔大塚〕	明榮寺
誠範〔一色〕	宗用庵	音秀〔貝吹〕	正顯寺
觀隆〔味濱〕	満國寺中	鳳瑞	千明弟
秀定〔赤羽根〕	西福寺	俊阿〔寺嶋〕	大通院
勝久〔瀬戸〕	永井伊賀	○政香	政均父
政均〔寺津〕	渡邊助太夫	政芳	渡邊普嵯吉
青翁〔一色〕	青山藤七父	近知〔横須賀〕	榊原八十男〕(46才)
○重信〔荻原〕	糟谷平藏	○英齋〔横須賀〕	堀岡空司
親美〔寺嶋〕	淺井新右衛門	○重三〔荻原〕	糟谷林右衛門
○古考〔岡山〕	大村二良左衛門	○有員〔道目記〕	中寫春洞
正成	正忠男	成武〔平坂〕	外山善左衛門
依重〔巨海〕	岩瀬佐之八	○政幹〔寺津〕	坂部安平
成愛〔平坂〕	外山伊三郎	親常〔荻原〕	木俣賢造
○重熙	糟谷縫右衛門	○成庸〔平坂〕	外山善兵衛
幹信〔寺津〕	坂部順之助	正忠〔平坂〕	太田庄兵衛
充芳〔千間〕	徳倉六兵衛	安年〔今川〕	中島義山
○信貞〔荻原〕	木俣周益	愛真〔巨海〕	岩瀬庄太夫〕(46ウ)
亮士〔熊野〕	下村甚吉	直愛〔野場〕	近藤勝之助
美祢女〔西尾藩〕	松平三良次祖母	○柳女〔西尾〕	辻利八母
○雪女〔平坂〕	外山伊三郎母	多豆女〔西尾〕	辻利八妻
○那美女	鳥山利兵衛妻	羅久女〔平坂〕	石川小右衛門妻
久女	正忠妹	綱女	成武女
岩女〔西尾藩〕	柳瀬又右衛門妹	○來女〔西尾〕	外山勘左衛門母
八代女	成愛妻	諦成尼〔平坂〕	

寶飫郡

忠敏主〔長沢〕	松平上総介	宣光〔八幡〕	寺部阿波守〕(47才)
○真樹〔當古〕	大林外記	○宣輝	宣隆父
○延重	宣隆曾祖父	静定〔當古〕	大林密太郎
青定〔長山〕	神保兵部	親光〔八幡〕	寺部主殿
宣隆〔一宮〕	草鹿砥近江守	○宣紀	宣隆祖父
仁〔欠画〕翁〔平井〕	東林寺	豊純〔東上〕	永寶寺
義宣〔財賀〕	財賀寺	○知來〔八幡〕	智教院
○顯阿〔清田〕	安樂寺中	正翁〔水竹〕	崇心寺
跨空〔竹谷〕	浄夢院	義觀	財賀寺中
梅点〔大村〕	珠光院	英棟〔長沢〕	大清水陣右衛門
道文〔下地〕	夏日喜平次	禧曼〔瓜郷〕	富田惣左衛門〕(47ウ)
乘正〔西郡〕	安藤富藏	○良古〔赤坂〕	上妻十藏
瓶孫〔赤坂〕	岡田作左衛門	正柔〔前芝〕	加藤六藏
○諸岳	瓶孫養父	光清〔西浦〕	鈴木淺七

信榮〔御馬〕	石川清吾	申蔭〔川崎〕	大林藤吉
意備〔平井〕	大林重兵衛	○廣正	正柔父
近昌〔下五井〕	片山紋吉	智信〔西方〕	山本湖十郎
光重〔御馬〕	鈴木靜衛	常平〔横須賀〕	小塚平八
信尹〔御馬〕	石川清十郎	○富秋	渡邊久右衛門
○美津女	宣光妻	○多加女	同人母
○美江女	正柔母	千登女〔下地〕	山本三太郎母〕(48才)
多美女〔前芝〕	加藤弥吉妻	○里枝女〔大木〕	島田惣十郎母
輝女〔西郡〕	安藤伊八母		

設樂郡

○亮禪〔鳳來寺〕	藤本院	○亮仁(欠画)	等覺院
○湛猷	一條院	圓潭	不動院
義篤〔新城藩〕	大石得右衛門	○寛親	池田主鈴
勝行	菅沼権右衛門	道武〔竹廣〕	滝川四郎
○重庸〔新城〕	鈴木禎助	春恒	山本権兵衛
従繩	太田金右衛門	重隆	城所逸次郎〕(48ウ)
景親〔川合〕	大原安兵衛	幸女	勝行妻

八名郡

正久〔加茂〕	竹尾中務	○重樹	竹尾大和守
千秋	加藤監物	重毅	竹尾能登守
嘉貴	加藤長門	○梁守	加藤和泉
昌信〔橋尾〕	竹生岩尾	○隆啓〔中宇利〕	富賀寺
靈臺〔牛川〕	正太寺	英弘〔赤岩〕	法言寺
○鶉阿〔山吉田〕	満光寺	定春〔小川〕	菅沼八左衛門
義路〔大野〕	大橋徳左衛門	定敬〔小川〕	菅沼耕兵衛〕(49才)
俊人〔大野〕	大橋左兵衛	○定年	定春父
定禧〔小川〕	菅沼正兵衛	重澄〔牛川〕	松坂幸左衛門
○定典	定禧父	○俊武〔大野〕	大橋徳右衛門
朝貞〔中島〕	竹生惣右衛門	喜章〔山吉田〕	莊田甚藏
盈家	松井五良兵衛	○宇羅女	俊武妻
菊女	義路妻	○竹女	俊人母

渥美郡

○信順朝臣〔吉田〕	松平伊豆守	○美石〔吉田藩〕	繁樹祖父
弘道	橋本俊藏	繁樹	中山弥助〕(49ウ)
○豊村	繁樹父	資生	深井静馬
○利武	川田千万多	勝政	安田六左衛門
○重鉄	夏目源二	元亨	和田直衛

居寛	川村音次郎	長廣	西岡東左衛門
為周	西村次右衛門	正庸	黒柳惣藏
○精磨	小池一庵	光禧	神保八良左衛門
○長貴	長秋父	○寛容	川村定藏
常美	山崎兩二	重範	亀井六良二
○御楯	小林磯二	○安全	和田下枝
○武定	中山喜左次	重瀧	木川善太夫」(50才)
○則成	宮田甚三郎	○古元	和田 肇
則矩	山田孫右衛門	○清典	寺尾大之進
清忠	染谷富之助	篤敬	富田小藤次
○高岑	遊佐弥八郎	○五百杵	山中熊之進
清蔭	小川八百右衛門	○恭	小池一庵
隆景	小野田秀若	義源	最勝院
正影	小島安太夫	發生	原田多治見
長秋	倉垣主鈴	○周恒	池田正平
定元	小川圓藏	○清素	小川俊作
美意	関根録三郎	○成憲	遊佐十良左衛門」(50ウ)
○為徳	西村孫次右衛門	有恒	富田鉄吉
忠恕	小池義一郎	益篤	木村甚助
○夏茂	橋本黙助	清行	中村庄助
勝祥	清水俊右衛門	尋門	杉山陽助
完懿	内藤泰助	保守	奥村真十郎
夏蔭	森本應助	○真重〔吉田〕	鈴木周防
守富	大宮司五位	○重生	鈴木大膳
菅守	鈴木石見	○守綏	大宮司筑前守
宣雅	田中近江	○兌健	岩崎典膳
○梁満	鈴木土佐	敬敏	廣岩主水」(51才)
○正臣	朝倉勘解由	重野	鈴木陸奥守
光文〔牟呂〕	光尋男〔十二歳〕	正明〔大崎〕	辻村淡路
光尋〔牟呂〕	森田五位	○光義	光尋父
正平〔大崎〕	辻村左織	敬雄〔羽田〕	羽田野常陸
祐巖〔吉田〕	悟真寺	○了願	了遊祖父
○了實	了遊父	○了遊	浄圓寺
洞流	龍拈寺	豊道〔悟真寺中〕	善忠院
古道〔飽海〕	前青龍寺	日遺〔二川〕	妙泉寺
義覺〔雲谷〕	普門寺	○圓壽	古道男
隆典〔飽海〕	青龍寺	慈導〔田原〕	知足庵」(51ウ)
○隆功主〔大崎〕	中島与五郎	恒雄〔高須〕	宮路藤助
豊充〔二川〕	田村善平	元里〔田原〕	田中東圃
通度〔二川〕	岡 道碩	古典〔高須〕	藤井松平

可規	宮路源助	丈雄〔川崎〕	竹田喜代三郎
吉雄〔橋良〕	芳賀岡七	景福〔田原藩〕	菅野玄順
憲古〔高須〕	宮路耕助	○養安〔田原〕	廣中六太夫
兼利〔飽海〕	朝倉東平	○常蔭〔龜山〕	井本彦馬
茲恒〔清須〕	小林勇作	○高亮〔高須〕	伊藤彦藏
○泰洲	淺野謙助	本教	淺野十右衛門
○春川〔田原藩〕	間瀬九右衛門	美教〔高須〕	白井八兵衛〕(52才)
道丸	遠藤晏朔	兼許〔大崎〕	高柳嘉年平
恒喜〔二川〕	田中弥次右衛門	○磯丸〔伊良兎〕	糟谷新之丞
○重見〔吉田〕	佐藤治良吉	祐利	久田卯平
恒泰	服部新助	重世	鈴木源吉
常風	牧野利助	○孝本	鈴木吉右衛門
○正通	木村猪左衛門	真清	三沢俊輔
長春	大原猪兵衛	○千善	彦坂喜平
三真	高津隆助	○景美	林善左衛門
○久道	小久保彦十	○義方	植田貞作
速夫	龜井孫六	多米女〔吉田藩〕	西村次右衛門母〕(52ウ)
○登波女	岩上六藏祖母	由幾女	古元妻
末須女	為周妻	○三尾女	石川景行妻
○友女	石川景道妻	○多豆女	資生母
古麻女	五百杵女	大炊女	了遊妻
福女	本教妻	三輪女〔飽海〕	松坂長四郎母
多計女	菅守妻	才女〔吉田〕	伊藤太次右衛門女
嘉壽女	隆功主妻		
正祐〔吉田〕	石田伊勢守	盡忠	中村藤兵衛〕(53才)

〔春部筆者尾藩〕	植松有經〕
〔夏部〕	有經門某〕
〔秋冬部並姓名録〕	水野藤八〕
〔戀部 三河〕	福泉寺公阿〕
〔雜部〕	成瀬廣冬〕
〔序凡例〕	矢野政弘〕
〔外題〕	三宅道熙〕
〔帙〕	藤井義貫〕(53ウ)

竹尾中務輯

書肆

三河新堀

深見藤吉

〕(奥付)